

保育の質向上へ

800人が方策探る

発表や講演 鯖江で県研究大会

第58回県保育研究大会が「元気な心とからだ(県、県社協、鯖江市主催)は4日、同市文化センターなどで開かれた。県内の保育士ら約800人が出席。研究発表や講演会などを通して、保育の質向上の方策を探った。小浜市公立園保育研究会

会が「元気な心とからだを育むために、くうれしいーだいきーやってみーたい」をテーマに研究発表。自然体験や運動遊びを保育活動に取り入れた影響を報告した。成果として、子どもたちの自然への興味が増し



県保育研究大会で研究発表する小浜市公立園保育研究会 = 4日、鯖江市文化センター

たことに加え、保育士の」と説明。「小浜の豊かな意欲向上にもつながった」自然の中で生き生きと遊

べるよう保育課程を見直し、積極的に屋外での活動を取り入れていきたい」とした。

大会では玉川大教育学部の大豆生田啓友教授による「新時代に求められる保育の質」と題した記念講演もあったほか、「専門職として常に教育・保育の質の向上を目指すとともに、取り組みを広く保護者や地域に伝えるよう努める」など4項目の大会宣言を採択した。

(桑野真吾)